品種特性一覧表（北海道）

科	種類	品種 ※品種名と商品名が異なる場合は、品種名を（ ）書きで記載しております。	ページ	播種量（kg/10a）	施肥量の目安1) N：P：K（kg/10a）	減肥の目安 N：K（kg/10a）	炭素率（C/N比）	播種期（月・旬）	すき込み期（月・旬）
イネ科	アウェナストリゴサ（エンバク野生種）	ヘイオーツ	8	10-15	5：5：0-5	0-4：0-4	15-30	4下～6中 7下～9上	7上～8中 10中～下
	エンバク	スナイパー PVP 4)	9	10	4-6：5-10：0-5	0-4：0-4	15-30	露地 8下～9上 二重/加温ハウス 11月	10月 翌年3月
	エンバク	とちゆたか	10	後作・休閑 10-15 間作 5-8	4-6：5-10：0-5	0-4：0-4	15-30	4下～6中 7下～8中	播種後2か月前後 出穂前後を目安
	エンバク	スワン	9	15-20	4-6：5-10：0-5	0-4：0-4	15-30	7下～8中	10中～下
	ライムギ	R-007（品種ウィーラー）	10	10-15	4-6：5-10：0-6	2-3：0-5	15-20	年内 8下～9上 越冬 9中～下	10～11月 5～6月（出穂前後を目安）
	スーダングラス	ねまへらそう（品種スーパーダン2）	11	5	6-10：6-10：0-10	0-4：0-8	20-30	露地 6～7月 ハウス 5～8月	8～9月 7～10月
	ソルガム	つちたろう（品種ジャンボ）	11	露地 5 ハウス 5	8-10：8-12：0-10 3-8：3-8：0-8	0：0-8 0-4：0-6	30-45 20-40	露地 6～7月 ハウス 5～8月	8～9月 7～10月
	トウモロコシ	SH9599	11	8,000粒/10a程度	8-12：12-16：0-12	0：0-10	30-35	5～6月	9～10月
イネ科マメ科	まめ助 とちゆたか 混播セット	まめゆたか	12	休閑 8 後作 8	4-8：6-8：0-8 3-6：6-8：0-6	0-4：0-6 2-4：0-5	20-30 15-25	5上～6中 7下～8下	7中～8中 10中～下
マメ科	ヘアリーベッチ	まめ助（品種ナモイ）	12	5	2-5：5：0-5	3-5：0-4	10-15	5上～6中 7下～8中	7中～8中 10中～下
	ヘアリーベッチ	藤えもん（品種マッサ）	13	4-5	2-5：5：0-5	3-5：0-4	10-15	5上～6中 7下～8中	7中～8中 10中～下
	ヘアリーベッチ	寒太郎（品種サバン）	13	5	2-5：5：0-5	3-5：0-4	10-15	5上～6中 9月	7中～8中 翌年4～7月
	クリムソンクローバ	くれない	14	2-3	3-4：8-12：0-6	2-4：0-5	15-20	4下～6中 7下～8上	7～8月 10月
	アカクローバ	メジウム	14	休閑 2-3 コムギ間作 3-4	2-4：8-12：0-5 0-2：0-5：0	5-6：0-4 2-4：0	11-15 10-13	5～6月 4月（出来るだけ早く）	9～10月 9～10月
アブラナ科	カラシナ	辛神 PVP 3) 4)	15	休閑 1.0-1.5 後作 1.0-1.5	8-10：5-10：0-7	1-3：0-6 2-4：0-6	15-20 12-20	露地 5月 ハウス 2～4月 8月（ハウスも）	6下～7上 4～6月 9下～10月
	シロガラシ	キカラシ（品種メテックス） 3)	16	休閑 2-3 後作 2-3	5-8：5-10：0-7	2-5：0-6 4-6：0-6	15-25 12-20	4下～6中 7下～8下	6下～7下 10月
ハゼリソウ科	ハゼリソウ	アンジェリア	16	2-3	5：5：0-5	0-4：0-4	15-25	5～6月	開花後
キク科	ヒマワリ	NS クルナ（品種NS Kruna）	17	条播 0.5 散播 1.0	休閑 6-8：8-10：0-10 後作 4-6：8-10：0-10	0：0-8 2-4：0-8	20-40 15-20	5中～7上 7中～8中	開花期から10日程度未開花の場合は10月中
ナス科	ソラヌムベルバウィアヌム（トマト野生種）	ポテモン PVP 4)	17	0.7-1.0	8-10：8-10：8-10	0-4：0-8	10-15	6中～7上 8上	播種後60～80日を目安

◎：おすすめ　○：適する　後作物の無印は普通とする。

1）北海道農政部 2004「北海道緑肥作物等栽培利用指針」を参考に作成。

特性	線虫抑制 キタネグサレ	線虫抑制 キタネコブ	線虫抑制 ダイズシスト	線虫抑制 2)サツマイモネコブ	線虫抑制 ジャガイモシスト	緑肥作物の効果 有機物の補給	緑肥作物の効果 空中窒素の固定	緑肥作物の効果 菌根菌の増殖	緑肥作物の効果 透水性の改善	緑肥作物の効果 塩類除去	緑肥作物の効果 土壌保全	緑肥作物の効果 防風・隔離作物	緑肥作物の効果 景観美化	後作物 テンサイ	後作物 ジャガイモ	後作物 マメ類	後作物 コムギ	後作物 園芸作物	利用体系 休閑	利用体系 短期休閑	利用体系 後作	利用体系 間作	利用体系 越冬	利用体系 ハウス
初期生育旺盛、細茎・多葉で多収。 キタネグサレセンチュウ対抗植物。 線虫対策は15kg/10a、9月播きは20kg/10a。	◎	◎				◎		◎	○	○	◎			○	◎	◎	○	◎	○	◎	◎			○
エンバク「品種スワン」より早生のエンバク。 ハウス栽培後や春先の有機物補給に。 ハウスは残肥を利用。一重ハウスにて栽培する場合は8月下旬～9月上旬に播種。		◎				○		○	○		○							○		○	◎			◎
耐病・耐倒伏性に優れる直立性のエンバク。 園芸作物や早春の防風作物に適する。 ドリフトガードクロップとして利用できる。		◎				○		○	○		○	◎							◎	○				
早生のエンバク。		◎				○		○	○		○									○	◎			
タマネギの後作利用に適する（保肥力の増加や土を柔らかくする）。 越冬させて早春の土壌浸食防止に適する。 ドリフトガードクロップとして利用できる。 越冬栽培でキタネグサレセンチュウを減らす。	○	◎				◎		○	○		◎	◎						○		○	◎		◎	○
キタネグサレセンチュウを減らす。 秋播きコムギ前の休閑利用に適する。 栽培期間が長く、多収。 ドリフトガードクロップとして利用できる。	○	◎				◎		○	○	◎	○	○				○	◎	◎	◎					◎
種子が小粒でスタンド形成が良好。 ドリフトガードクロップとして利用できる。		◎		◎		◎		○	○	◎	○	○				○	○	◎	◎					◎
サツマイモネコブセンチュウ対抗植物。 クリーニングクロップは無施肥で栽培する。																								
遊休農地の地力向上に利用可能。 休閑利用で粗大有機物確保に。		◎				◎		◎	○	◎	○	○				○	○		◎					○
直立性のヘアリーベッチ「まめ助」とエンバク「品種とちゆたか」との混播。 8月下旬播種でも利用可能なセット。根粒菌により空中窒素を固定し、地力を増強。						○	◎	◎	○		○			◎	○					○	◎			
夏播きで多収なマメ科緑肥作物。 根粒菌により空中窒素を固定し、地力を増強。 コムギや早出し作物後に播種できる。						○	◎	◎			◎			◎	○		◎			○	◎			
耐湿性と低温伸長性に優れる。 根粒菌により空中窒素を固定し、地力を増強。 越冬する場合もあるので、しっかりとすき込む。						○	◎	◎			◎		○	◎	○		◎			○	◎			
越冬性と耐湿性に優れる。 根粒菌により空中窒素を固定し、地力を増強。 長期栽培で雑草抑制が期待できる。 播種期が遅れると越冬しない場合があるため注意。						◎	◎	◎			◎		○	◎	◎		◎		◎	○	○		◎	
ダイズシストセンチュウ対抗植物。 根粒菌により空中窒素を固定し、地力を増強。 深紅の花が景観美化に適する（春播きのみ開花）。			◎			○	◎	◎			◎		◎		○	○	◎		◎	○				
根粒菌により空中窒素を固定し、地力を増強。 ダイズシストセンチュウ対抗植物。 コムギ間作は適度に土壌水分があるうちに播種する。 ソバ間作の播種量は3kg/10a、施肥はソバに合わせる。			◎			○	◎	◎	◎		◎			○	○	○	◎		◎			◎		
辛みの成分含量が高いアブラナ科緑肥作物。 着蕾～開花始の茎葉部の多い時期にできるだけ細断してすき込む。 ハウス等残肥が多い場合は無施肥でも可。 景観緑肥にはキカラシの方が良い。テンサイ根腐病、ホウレンソウ萎凋病、コムギ立枯病の発病軽減効果が期待できる。						○					○		○	◎			○		○	◎				○
8月上旬までにできるだけ播種を終える。 ハウス等残肥が多い場合は無施肥でも可。																								
生育旺盛で多収。 テンサイの前作に適する（収量性を改善）。 鮮やかな黄色い花をつける。						◎					○		◎	◎			○			○	◎			○
春播きで生育旺盛、被覆が早く雑草対策となる。きれいな紫色の花が咲き、蜂花植物としても適する。花は8月まで楽しめる。前作で栽培すると長ネギの生育が良好（都府県で実証）。						◎					◎		◎				○		◎					
景観利用だけでなく有機物補給にも。 パーティシリウム半身萎凋病の抵抗性に優れる。						○		◎			○		◎				○		◎	○	○			
ジャガイモシストセンチュウ対抗植物（春播きの方が密度低減効果が高い）。					◎														◎		○			

2）サツマイモネコブセンチュウの系統によっては抵抗性を示さないものがあります。 3）アブラナ科野菜の根こぶ病発生圃場でのご使用は避けてください。 4）海外持出禁止（農林水産大臣公示有）。

品種特性一覧表